

越境する宗教とその可能性

かけがえのなさ と 互換性：
何のために生きているのか

鈴木繁夫（名古屋大学・名誉教授）
2016年前期
名古屋学院大学：国際文化交流特論

意見文の書き方：

- 読み手にわかる文の最低条件
 - － 主語と動詞の一致
 - ×「15歳は成人であるの見解に対して、私達すべてが賛成すべきだと主張することは、私は全面的に同意できる。」
 - ○「 15歳は成人であるの見解に対して、私達すべてが賛成すべきだという主張がある。このような主張に、私は全面的に同意できる。」

意見文の書き方：

- 読み手を混乱させない文の条件
 - － 一文一意：一つの文には一つの内容。
 - ×「15歳は成人であるという意見に賛成する人が大半であると思うが、自分の気持としては賛成したい気がするし、かといって全面的に賛成というわけでもない。」
 - ○「15歳は成人であるという意見に大半の人が賛成するであろう。しかし、私自身は賛成はするが、それは条件付き賛成である。」

使い捨て人間→互換可能



ルネ・マグリット
「デカルコマニア」
1964

「王様は裸だ」という勇気



物神崇拜の形成 (物象化)

- 実物においてはXにすぎないものを、実際にはYとして取り扱ってしまう。
 - しかもYを自分が生活を続けていく上で、不可欠のものとする。
 - 考えるだけでなく、実際にそのように取り扱う。
- 「人々はそれを意識してはいない。しかしそれを行う。」 (マルクス『資本論』)

物神崇拜がもたらす思い（物象化）

- Yの例

- 「お金を貯めなくては、生活ができない。」

- 「お金はたくさんあったほうがよい。」

- 「バイト（労働）をすればお金（資本）をもらえるので、バイトをすることはよいことだ。」

「物」神崇拝による生活世界の転倒

- 貯金額が高い
- 高価な物を豊富に所有する



- 個人の自由がある
- 人間の生きがいがある
- 生活が幸福である

宮台真司

- ブルセラ・援助交際をフィールド・ワークする。
- 社会学者・大学教員に不適合として糾弾される。
 - 信念：
 - 研究者は研究対象によって差別されてはならない。
 - 研究対象によって研究の価値は決められない。
 - 学問は、社会病理（高度消費社会の「終わらない日常」）をえぐり出し、病理改善のための処方箋を描き出すという使命。

自己啓発セミナーの落とし穴

- 「欲望を禁圧する代わりに欲望自体を変える（潜在意識を書き換える）催眠誘導」（宮台）
- 「私が自分の欲望を書き換えたい」という私の欲望は、社会へ適応したいという欲望に過ぎない。
- 社会は物神崇拝に満ちている。
- 社会への適応：物神崇拝者となること

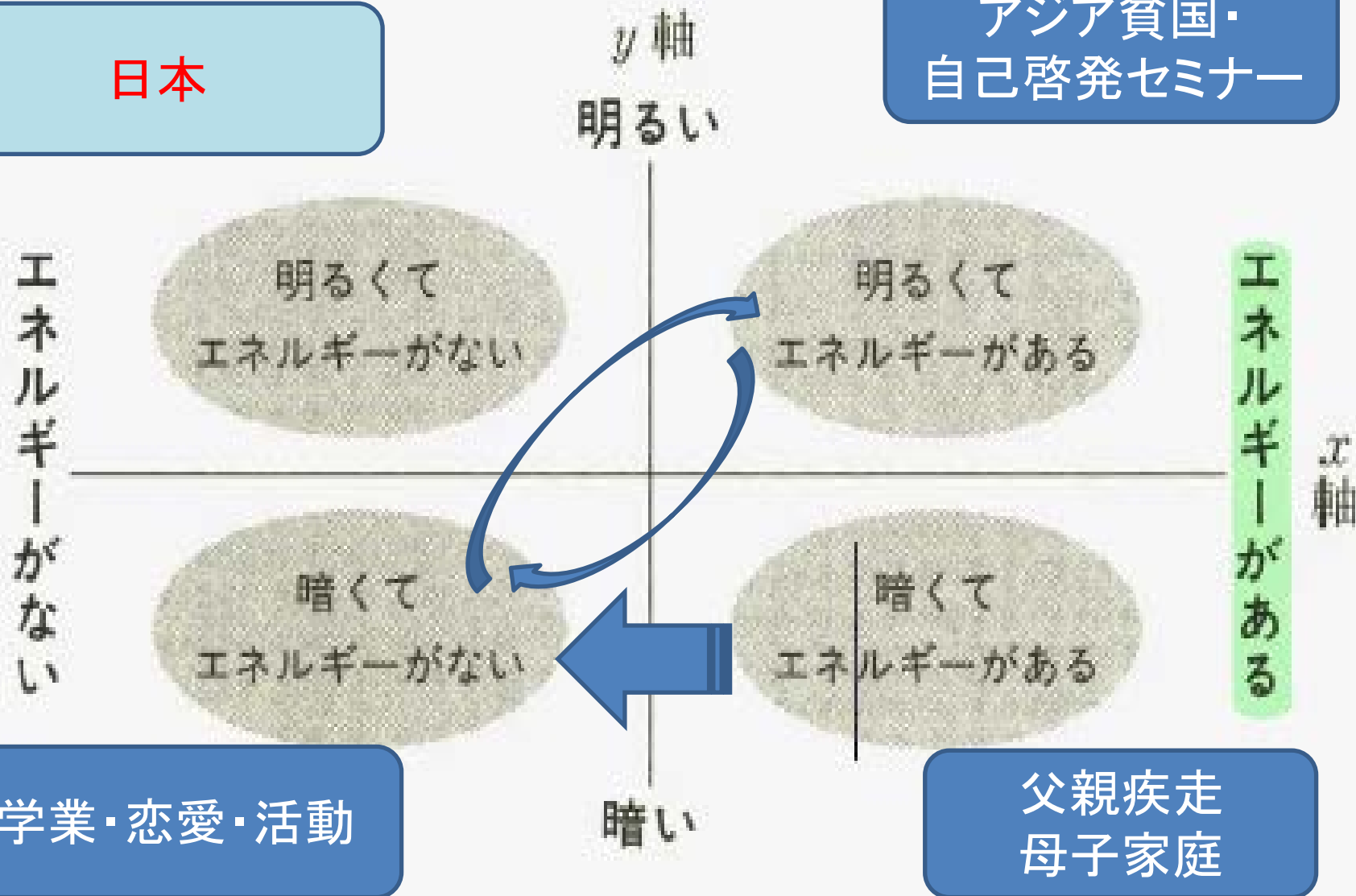
二つの社会

コンビニ・ファミレス的	地元商店的
学習塾	学校
アマゾン	本屋
Eメール	葉書・手紙
使い捨て消費	物を大切にする節約
社会システム	生活世界

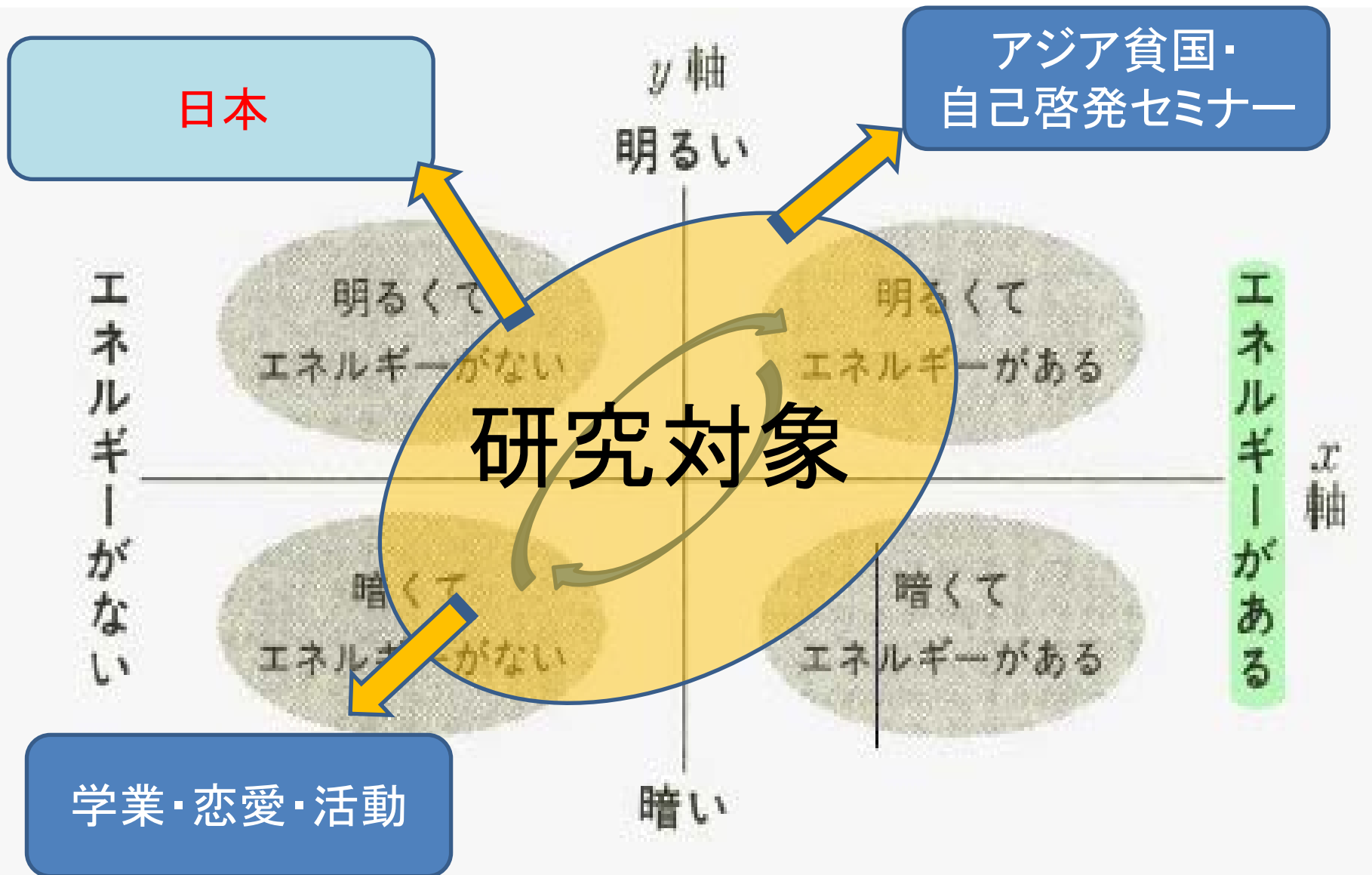
上田紀行

日本

アジア貧国・
自己啓発セミナー



上田紀行



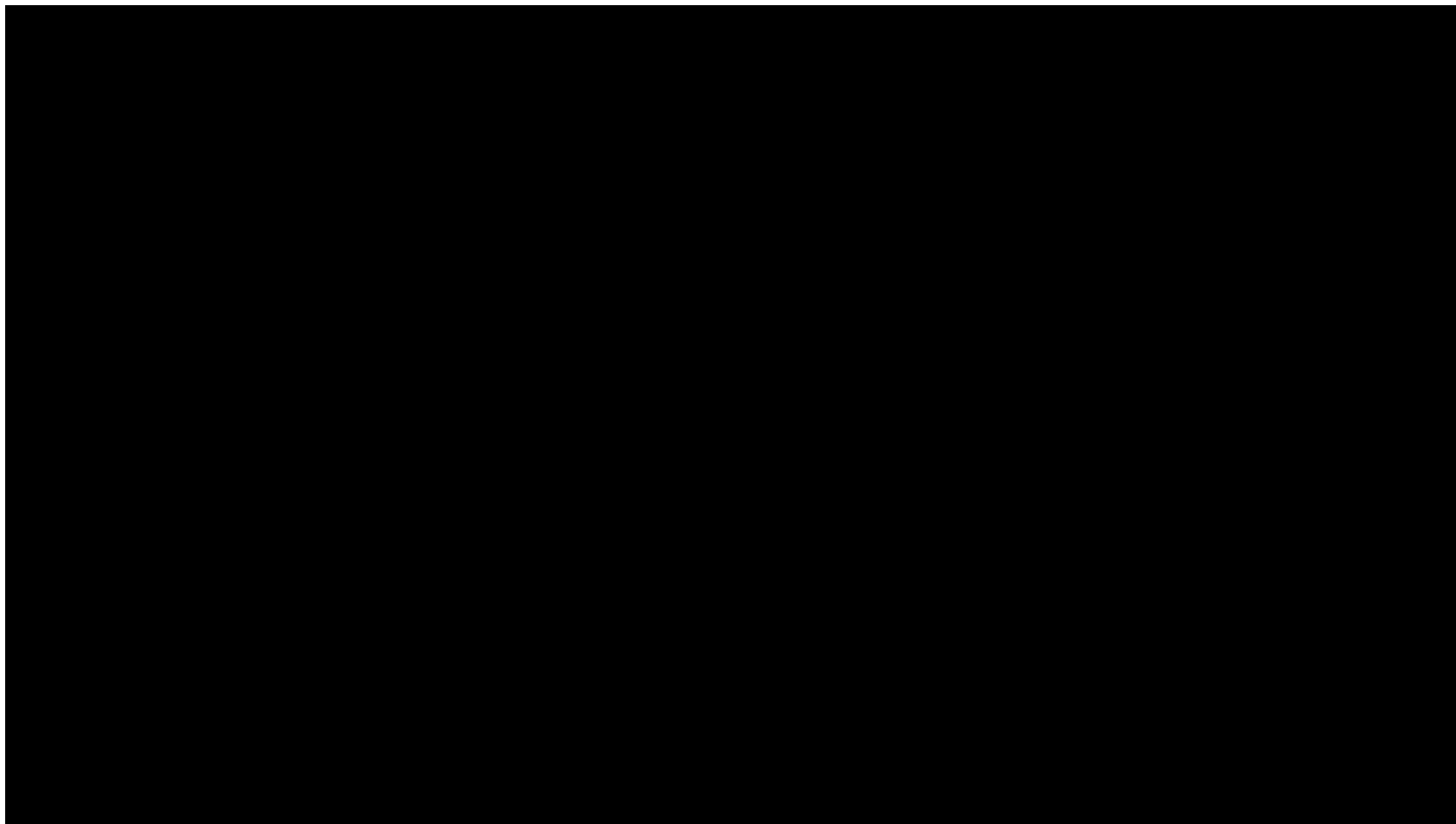
個性派の共通点

- 物神崇拝から自由になるためにどうすればよいのかを、自分で考え、自由へと実践活動する。



- Xという社会にしたいという未来への希望を抱いている。
- 未来への希望を実現するために自分で活動する。
- 私も未来も、「かけがえのないもの」。

願いはかなう



「おたがいさま」

1. 行動の積み重ねが、希望を実現しようとする意識を強化する。
2. 意識強化が自信になる。
3. 自信が希望の実現となる。

